

甲賀はみんなのパラダイス



原稿執筆者
まちかど特派員

杉山 祐子



▲「川にはこんな生き物がいるよ。」(自然観察会にて)

杉山 現在、甲賀市版レッドデータブックの調査をされているそうですね。

注 絶滅の危険性がある動植物の種類をリストアップしてある本。生物の現状を警告するとともに自然環境の保全を訴えている。

河瀬 ここ数十年の間に甲賀市でも自然環境が急速に変化しています。そこで、かつては身近にいた動植物を守るため、それぞれの地域の特色を正しく把握して、実際に合う保全の方法を考える必要があります。そのための資料としてレッドデータブックを作成することにしました。

4月から広報のページで「甲賀市の大切な自然」と題した連載があるのをご存知でしょうか。ギフチョウ、カワセミ、トキソウ、エビネラン……。どれも「貴重な動植物」として報道されているものばかり。これらの生き物が存在する甲賀市の大切な自然は、今のようになっているのでしょうか。この記事を担当されているみなくち子どもの森の学芸員、河瀬直幹さんにお話を伺いました。

甲賀の自然と希少な生き物

	I. 甲賀市全域に広がる丘陵地 (主に水口・甲南・甲賀・土山)	II. 急峻な鈴鹿山地 (土山～甲賀)	III. 高原状の信楽山地 (信楽と甲南・水口の一部)
山野の自然	約200～300万年前に古琵琶湖が存在した地域で、粘土層(ズリン・ズニン)が広がり、水はけは良くない。しかし、身近な水田やため池付近にも、多くのカエルなど、湿地を好む希少な動植物がすむ。丘陵地の自然が広範囲に残る地域として、全国的にも貴重。	御在所岳から油日岳にかけて三重県境と接する地域。尾根付近は千メートル前後の標高があり、カモシカやブナなど山地や寒い場所にすむ動植物が見られる。	主に古い花崗岩からなり、大戸川沿いに平地がある。高原状の山地。コウヤミズキなど、県内でこの地域にしか見られない動植物がいる。
川の自然	滋賀県で最長の河川、野洲川が流れている。 平坦な土山や水口の街付近では、多種類の魚がすむ。近頃少なくなった石ころの多い河原があり、カワラバッタやカワラハコなど河原の希少な動植物が見られる。	急峻な源流には、イワナやナガレヒキカエルなど渓流の動植物がすむ。	大戸川は砂利底の緩やかな流れが特徴。オオサンショウウオやアオハダトンボなど、他地域ではめったに見えない生き物もすむ。

杉山 甲賀市の自然とそこにすむ生物の特徴は、どんなものですか？

河瀬 まだ調査途中ですが、大まかに分けると上の3つの地域に分類できそうですね。

杉山 自然に大変恵まれた甲賀市ですが、例えば全国的に絶滅が心配されているメダカについてはどうですか？

河瀬 もともと、メダカは平地の小川や池にすんでいて、人間が田んぼを作った時代に、田んぼや用水路にもすみついて、身近な魚として親しまれてきました。

しかし最近では平地の池や小川は無くなり、田んぼや水路の水はけが良くなりました。メダカがすめるようなゆったりとした流れがいつの間にか少なくなってしまったことが激減した原因だと言われています。甲賀市についても似たようなことが言えると思います。

杉山 調査をしていて嬉しかったことは？

河瀬 先日、県内ではほぼ絶滅とされていたベニイトトンボが確認できました。希少生物の新しいすみ場所や多くすんでいる所を発見すると嬉しいですね。

杉山 どうもありがとうございます。

身近な自然に関心を！

家から一歩出れば、そこには緑がある。私たち甲賀市民は、ずっと昔からこのような恵まれた環境で暮らしてきました。「人と自然が共存している地域」それがこの甲賀市なのです。

しかし河瀬さんは「同じ景色」に見えていても、昔と今とでは生態が変わってきています。」と警告。この事実をなんとかしてみんなに知らせるために連載が始まりました。

あなたの家の周囲にもっと目を向けてみませんか？ すぐ裏の田んぼに、水路に、道端に貴重な動植物がいっぱいいるはず。それらの生き物が5年先、10年先に「気づかないうちにいなくなっていた」ということのないようにしなければいけません。たくさんの方がいつも身近な自然に関心を持っていること、それがこの甲賀の自然を守る大切なポイントなのかもしれません。甲賀が人間を含めた「みんなの住みよい場所であり続けるためには、みんなのちよつとした心がけが必要なのです。」

